

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300575
法人名	有限会社カリヤ
事業所名	グループホーム愛
所在地	鹿屋市下高隈町5039番地8 (電話) 0994-40-6100
自己評価作成日	令和3年11月30日 A・B共通

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の個々の状況を把握して、できるだけ本人の意向を重んじた介護に取り組んでいる。
 ・職員間の協力体制が整っており、長期にわたり勤続できている
 ・家庭的な食事の提供ができており、入居者から好評を得られている
 ・入居者の異常の早期発見に努めており、医療との連携が計れている

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「明るく 楽しく 仲良く 和やかに輪になって一緒に暮らしましょう」をホーム独自の理念として掲げるほか、サービスの質の確保や本人本位の生活支援を職員理念に、また利用者の理念も掲げ、口腔ケア前に利用者も含め唱和することで意識付けを図っている。特に地域の中でのホームの役割や存在についてを大切に、自治会に加入して地域行事への参加や小学校、中学校との交流等、積極的に行ってきたが、コロナ禍の現在、交流することができない状況である。そのため、コロナ収束後は地域交流や学校との関係を再開させたいと考えている。

食事は利用者にとって楽しみであり重要なことであるため、野菜の下ごしらえや下膳の手伝いなど、利用者の能力に応じて参加できることを見つけ、可能な範囲内で調理に参加してもらっている。また、利用者の食べたいものや好きなものを把握してメニューに取り入れたり、コロナ禍で外出に出かけられない代わりに誕生会や年末年始、節分や敬老会、クリスマスメニューに工夫を凝らすなど、四季が感じられる季節メニューを提供している。

入居前のかかりつけ医を把握し、入居後も本人家族の希望する医療機関受診を支援しているが、訪問による安心から多くの利用者が協力医療機関による訪問診療を利用している。また、薬剤師による薬の説明や利用者の様子を気にかけてもらい訪問も多いことから、利用者や家族はもとより職員の安心につながっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員は運営の基本方針や目的をしっかりと踏まえ理念を共有し、介護の実践に常げるべく園内研修に於いて学習している。	ホームの理念に加え、職員理念と利用者理念を掲げ、週に数回利用者と一緒に唱和することで意識付を図ると共に、家族や地域と共に輪になって過ごせる環境作りを理念に組み込み実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	経営者が地元であり、（ホームのとなりが自宅）ホームも近所の人と気軽に声をかけられる環境にある。また地域の奉仕作業などにも参加している。	自治会に加入し地域行事に参加したり小中学校の職場体験の受け入れ、ボランティアの受け入れ等積極的に交流してきたが、コロナ禍のため外部との交流を控えている。近隣者とは散歩途中の挨拶や会話で交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所にはサポートワーカーがおり、「オレンジの窓」の看板を掲げている。地域の方より、相談を頂くこともある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や提案は、サービス向上の為に役立っている。会議には地域の代表者や消防分団長などにも参加してもらっている。現在は書面会議にて、意見等頂き市に報告。またサービス向上にも活かしている	コロナ禍のため、外部者参加の会議は実施せず書面に代えている。活動内容報告を含む運営推進会議に関する文書を参加メンバーに案内し意見を求め、報告書としてまとめた資料を行政やメンバーに配付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話により、日常的な相談や指導を、また提出物等で顔合わせできる機会を通じて、助言や指導を受けている	行政職員とは介護関係の書類提出時や相談事がある時に出向くほか、集団指導で意見を交わしている。また、福祉事務所や地域包括支援センターの職員とも顔を合わせ、利用者の暮らしぶりや実情を伝えるなど日々連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないケアを行っている。やむを得ない場合は、家族への説明、同意を得て、身体拘束記録簿への記録、2週間に一回のカンファレンスを実施、解除の方向を目指す	身体拘束廃止委員会規定の中に身体拘束適正化のための指針があり、月に2回身体拘束廃止委員会による話し合いを実施している。ベッド柵による拘束ケースがあるため、拘束をしないケアについて家族の意見ももらいながらモニタリング評価と話し合いを繰り返し行い支援につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法については、研修会等に積極的に参加し学習している。園内研修にも計画を入れ、今年度は外部より出張研修も組み入れた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経営者、管理者、職員共に研修等で学ぶ機会を得ている。今年度は後見人が必要な入居者が2名あり、制度の流れ等、実際に学ぶ機会や、関係者との話し合いの場が増えた		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての文書において説明を行い、理解、納得を得て利用して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や提言があれば、受け止めて直ちに運営に反映できるようにしている。	家族から意見を多くもらえるよう窓口での支払いをお願いしたり、コロナ禍で家族会は開催できなかったが、代わりに活動内容や運営報告を書面にまとめ送付することで意見や感想、要望を伺う機会につなげた。オレンジカフェの再開を希望する声が上がっているため、コロナ収束後は早々に再開させたい意向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の幹部会議の他に、日常的に聞く機会があり、（お茶や食事時）すぐに反映できること、また、社長、施設長に相談してできる限り実践している	管理者は毎日の申し送り時や毎月の職員会議のほか、食事時間や休憩時間等、日常的に職員の意見を聞いている。また、勤務表作成時には休みの希望を尋ね、可能な範囲で反映させると共に研修や資格取得時の支援もあり働きやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい職場にするために、度々職員の意見を聞いたり、会社の方針を話すなどして、双方の条件を整えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外の研修を受ける機会を逃さず、介護の経験年数や本人の意欲に応じた資格取得ができるように進め、シフトの組み合わせや受講費用の助成も実施している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所連絡会に置いて、研修会が多く、可能な範囲内で参加している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要求に沿ってできるだけ叶えられるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には、家族や本人と話をし、問題点があれば受け止めて、できる限り対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞き、できる事等見極め対応を行っている。他サービス利用は、要望もなくグループホーム以外の利用はない		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物をたたみながら昔の話を聞かせてもらったり、調理の仕方を教わったりしながら、日常生活を共に過ごしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ができない事を手助けし、また家族にお願いすることもあり、良い交流が図られる努力をしている。本人に少しでも変化があれば電話をかけて相談したり報告をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今後も途切れる事のないよう支援に努める	家族より生活歴を詳細に聞き取ると共に入居前の医療機関の相談員やケアマネージャー等からの情報提供も参考にしながら馴染みの関係を把握している。コロナ収束後は馴染みの場所に出かけられるよう支援したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴、全盲等により孤立しがちな人もあるが、要介護度1, 2の方が増えて会話も弾み、馴染みの関係となり和やかに暮らせている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者家族にも、他施設に移られた方々にも時折近況を聞いたりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたい意向の強い入居者の希望は叶えられないが、一人一人の思いや希望にそえるよう努めている	声を掛けると笑顔を見せたり、褒めると喜ばれる等、日々の行動や表情等から思いを汲み取ると共に毎日笑顔がたくさん見られるホームにしたいと考え、日々支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一緒に話をしながら、今までの暮らしぶりを聞いたりする。入居者個人の要望に応えながら、時間を作って一緒に行動しながら把握していくようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で昼寝をされたり。テレビを視たり、手伝いをしたり等一人一人に合った過ごし方ができるように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、ケア会議に於いてスタッフ全員で一人一人のアセスメント、モニタリングを行っている。	本人家族の意向を基に、毎月のケア会議によるカンファレンスや定期モニタリングのほか、主治医には照会文書で意見を求めケアプランに反映させている。また、身体状態に変化が見られたり、意向に変化が生じた場合は速やかにケアプランを見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌を記録し、日勤者より夜勤者へ、夜勤者より日勤者へ申し送りを行い、会長、施設長、管理者へ報告される。入居者の情報は共有し、介護に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにはその都度本人や家族の要望に可能な限り、柔軟に支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	元民生委員には相談苦情の委員をお願いしており、地域の消防分団には、避難訓練を通じて入居者の状況を理解してもらっている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は在宅医の訪問診療が中心となっており、職員から、医師、看護師へ相談したり、意見を聞いたりしながら良い関係を築けている	入居前のかかりつけ医の情報を把握し、入居後も本人や家族が希望する医療機関を受診できるよう家族と職員が協力して受診を支援している。医師による訪問診療のほか、薬剤師による様子観察もあり安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師に伝えて相談し、さらに在宅診療看護師、必要時には訪問看護師に相談して、適切な看護が受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、その後の受け入れなど医療関係者、家族ともよく相談し可能な限り早期退院ができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、早い段階でかかりつけ医と家族が話し合い、方針を決める。ホーム側は医師の指導の下、看護師の協力をもらいながら、スタッフ全員協力しながら看取り介護を行っている。	「健康管理と医療体制に関する規定」を作成し、入居時に重度化や看取りに関する方針を説明し、別紙にて同意書を交わすと共に、入居後も身体状況に変化が見られた場合など都度、規定を説明することで変化する思いの把握に努めている。これからも関係者間での情報共有により、チームでの支援に努めていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習の受講 急変時の連絡網、救急時の情報提供カード等整備している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回夜間想定での避難訓練を実施している。非常ベルは北側、南側の外部にも向けて鳴動する仕組みで、地域の協力も得られると思う</p>	<p>年2回、夜間想定を含む災害訓練を防災設備会社の職員等と共に実施。消火訓練や設備点検等を行っている。備品として防災頭巾やヘルメット、カセットコンロ等確認できたが、災害時用の備蓄に関しては確認できなかった。</p>	<p>台風前に飲料水は確保するとのことであったが、日常的に災害用としての飲料水や食料品は準備されておらず確認できなかったため、今後は備蓄の重要性について職員間で確認して頂き、必要な食料や飲料水の確保につなげて頂けるよう期待する。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は年長者として、失礼のない言葉遣いや態度を心掛けているが、時折ふさわしくない言葉遣いが聞こえてくることもあり、その都度注意している。	本人の気持ちやプライバシーに配慮した声掛けが行えるよう気を付けているが、時に不適切な言葉遣いに気付いた時は、管理者等が声を掛けるなど注意喚起している。また、個人情報についても管理を徹底させるなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に希望が解る限りは、希望に沿うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に暮らしてもらえるようにはしているが、見守りに欠ける時間帯には必ずしもというわけではない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	理美容など本人の希望が解る限りは希望に沿うようにしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ等は、できる方にやって頂いているが、食事介助も増えており、一緒に食事や片づけはできない	利用者に食べたいものを尋ねたり、好きなものを把握し献立に取り入れており、利用者も調理の下ごしらえや下膳をする等、職員と一緒にできることに取り組んでいる。コロナ禍で外食できないため行事食に工夫を凝らしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスはほぼ同じ量を摂取されている。水分量は一日の理想摂取量が摂れるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人一人の口腔状態に合わせて必ず実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の訴えと時間毎の誘導にてトイレでの排泄ができるよう支援している	排泄チェック表により、個々の排泄パターンを把握し、おむつ使用者も日中は可能な限りトイレで排泄できるようトイレ誘導を支援している。また、夜間は睡眠を妨げないよう容量の多いパットを使用するなど工夫して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便のサイクルを把握して、処方されている緩下剤や飲食物、運動等でコントロールしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の曜日や時間帯は決まっているが、必要性のある人がいるときは、いつでも入浴できる環境にある	週2～3回午後からの入浴としているが、入浴希望があれば随時入浴は可能である。重度化により入浴が困難な場合でも、安全に配慮し二人体制で入浴介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	他の入居者を気にせず、居室でゆっくりと過ごしてもらえよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の処方について、飲み方やその内容など、スタッフ間で情報共有し症状の変化などの確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる人にできる事をしてもらっている。嗜好品など本人から伺い、準備したりしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「気分転換の為の散歩」 「定期的に美容院へ行く人」 「時々家の様子を見に帰る人」 「病院受診に行く人」以外の日常的な外出はできていない	以前は洋服を買いに出かけたり、季節毎の花見やお弁当持参によるドライブ等に出かけていたが、コロナ禍の現在は、必要最低限の外出に控えている。コロナ収束後は生活に楽しみが得られるよう、これまでのように外出の機会を作りたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持している人はいるが、自分で「使う」機会はない</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかけたい申し出があれば（またはその必要を感じた場合）電話をかけている。手紙が届くことはあるが返事をかける入居者はいない</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快な音や光は、個々の訴えに合わせて消したり小さくするなど配慮しており、居心地良く過ごせていると思う</p>	<p>天窓のあるフロアの採光は十分にあり、利用者と職員と一緒に作った季節の作品が掲示され明るい雰囲気を感じられる。コロナ感染症対策として大型の空気清浄機を備えると共に、こまめな換気や消毒の徹底に努めている。玄関ドアは引き戸で開口部が広く、段差はないため車椅子でも移動がスムーズに行える造りになっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う人と一緒に過ごせるようテーブルの席を工夫している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の写真や、家族から届いた家族の写真等を飾っている</p>	<p>ベッドやクローゼット、洗面台が備え付けられ、テレビや位牌、写真等、自宅から持ち込まれた馴染みの品を自由に配置している。また、換気や加湿、掃除や消毒の徹底に努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれのできる事、できない事を把握して、その人にあった生活援助に努めている</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
		○	4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない